

【韓国漫画出版の現状について】

21世紀のコミック作家の著作権を考える会

韓国におけるマンガ市場は、1994～5年にピークを迎えた。当時、大手出版社のコミックス初版部数は平均4万部と言われていた。

しかし、1997年のIMF通貨危機以後の不況により、失業率が高まり、低資金で開業できる貸本業者が多数開店した。1998年のピーク時には、4700万人の人口に対して2万店の貸本店があるといわれていたが、その後の淘汰によって、現在は8000店前後となった。

現在では、年間コミックス販売部数の80%は貸本店が購入する。

消費者に直接購入されるコミックスは、人気上位10～15作品に限られ、部数は全販売部数の20%を占めるに過ぎない。

出版社の経営は、コミックスを常時購入する貸本店によって支えられ、販売市場と貸本業者が相互に依存している状況といえる。

漫画出版物流通箇所の変遷

	1993年	1998年	2003年
貸本店	なし	20000	8000
書店	5221	4897	2376
オンライン書店	なし	1～2	10
取次直営書店	4	20	20
漫画喫茶	5000	3～4000	2000

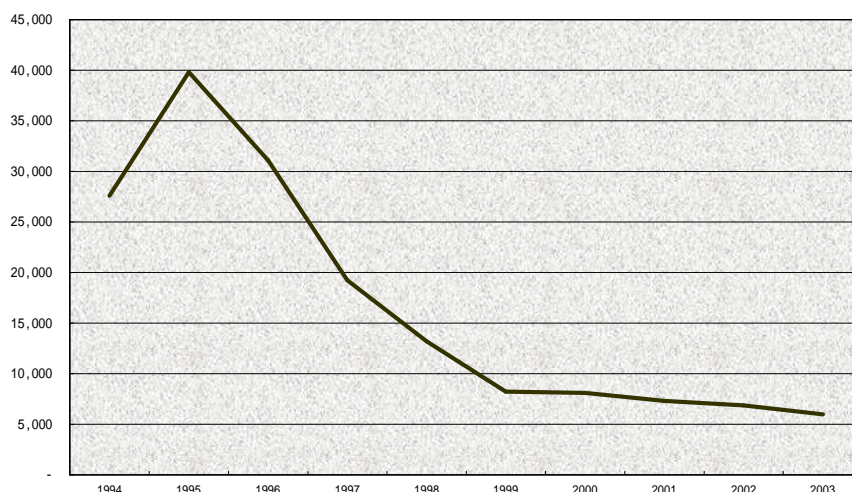
2003年 コンテンツ振興院調べ

漫画取扱シェア

貸本屋=80%・書店=10%・オンライン書店=5%・取次直営書店=4%・漫画喫茶=1%

*韓国にレンタル市場が拡大した最大の影響は、消費者に「漫画は借りて読むもの」という意識が強くなったことである。販売部数はピーク時の1/5～1/10とされている。

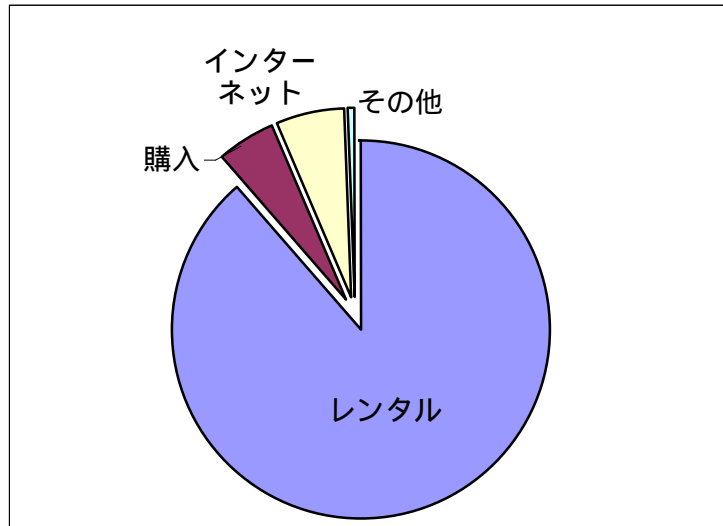
韓国大手出版社の1点当たりの平均販売部数の推移



韓国の漫画読書方法

年齢	レンタルする	購入する	インターネット	その他
19歳以下	89.3	4.9	5.3	0.4
20～29歳	91.8	2.5	5.8	0
全体	88.7	4.9	5.9	0.5

2003年 コンテンツ振興院調べ



マンガ貸与権の導入が今、話題を呼んでいる。

“マンガ家と出版業者に一定の使用料支払”

マンガ貸与権の導入問題が今年マンガ業界の最大の話頭になっている。

マンガ市場沈滞の主犯として数年間に指目されてきたマンガ貸与問題をもうこれ以上放置できないほど市場の状況が最悪だからだ。政府も貸与権の導入をマンガ販売市場の活性化の核心と考え今年内に方針を固める予定。

文化観光部の関係者は“今年の上半期に出版マンガ産業中長期発展計画が確定される次第に貸与権の導入方案を準備し、早ければ秋の定期国会に閣議法案を想定する計画”と述べた。

マンガ貸与権の導入が議論を巻き起こしている理由は IMF（経済危機）以後 図書貸与店が急増し、読者たちが マンガ本を買って見る代わりに借りて見る文化が定着し、このことによって 販売市場が縮小 生まれ、マンガ創作が深刻な打撃を負われているからである。

実際に 2002年 マンガ市場はマンガ出版が156億円、貸与514億円、販売 72億円、オンライン (on-line) 16億円が規模だと推算されていて貸与市場が肥大な畸形的 構造になっている。

マンガ家たち、出版業界、マンガマニアたちはこのような市場構造ではマンガ創作者の利益が貸与店に行ってしまう、マンガ創作が 打撃を受けているからできるだけ早く貸与権を導入しなきゃならないと主張している。

マンガ貸与権を導入する時一番大きい難点は本の貸与権に対しての見慣れていない社会的認識を 克服する事である。外国でも本に対して貸与権を認定している事例がなく、立法過程で相当な論難が予想されている。

また 貸与権の範囲、マンガ家と出版業者の間の利益配分、貸与料の算定をための電算化作業など越えていかなきゃならない課題が多すぎる。貸与権の導入が貸与市場の減少と言う結果になった場合、おこりうる貸与店業界の反発に対しての対策も準備しなきゃならない。

しかしマンガ界はこのような難点が存在するにもかかわらず貸与権問題がマンガ産業の活性化の鍵になってくれるという認識が拡散されていて立法作業が急速に進行される可能性もあると見ている。

2003年2月23日 東亞日報 から

こんにちは。

私は韓国でマンガを描いている作家、朴相仙と申します。

私は現在女性マンガ部分で児童誌を除外してメジャー雑誌3箇所の中で施工社のビジュという雑誌で連載をしています。

こんなに手紙と本をお送りするのは私を知らせるためです。

また申し上げると、[働きたい]という理由で手紙を書きました。

どうして韓国人が韓国で働くことを思わないで日本側の出版社にこんな手紙を送るの聞いたら[ずっと描きたい]からです。

現在韓国のマンガ係は<マンガ貸し下げ店>と<誤った法>によって枯死状態です。

日本では 手塚治虫のような巨匠のおかげで貸し下げ店が成り立たなくなったんですが、韓国ではそのように自分の仕事に命をかける人がいなかったのか、それともそんなことさえ無視されたのか、 知的な財産を誰でも盗んで他人に賣ることができるのが合法化になりました。

そのように長年の時間が経ってマンガ係は枯死状態に至ったし、多くの作家とマンガにたずさわっているたちは筆を折る事態にいたりしました。

それさえも賣れる方は児童を対象にするマンガや学習マンガなどであり、残り大人や青少年を対象にした作家たちはこれ以上本が賣れなくなったので雑誌が廃刊され、立場を失うようになったんです。私のようなスタイルでマンガを描く人はもうメジャー雑誌側ではほとんどないです。

周りではよくも生き残ったと言います。本当に悲しい事です。

私よりずっと立派な先輩作家たちも、仲間たちもこれ以上賣れないという理由でその間の功勞は皆忘れたまま退出されました。

實力がないとか内容が面白くないなら認めてやめた方が良いかも知れませんが、あまりにも不当な理由だからそんな事を見ることは胸がにじるように痛いです。

私に似ている性向の作家たちは筆を折るとか外國での進出をしている状態です。

私も生き残るために、ずっと描くためにこんなに門をたたきます。

4歳からマンガを描き始めて夢は一生一つでした。そして夢をつかんで暮して幸せでした。私のすべてのものを捧げても、私の家族と友達と私よりももっと重要なのがマンガです。夢を失うと言うのはすなわち死を意味するのです。

まだ運が良くてメジャー雑誌で連載をしていますがるですぐ切れるような橋を渡る気持ちで一日一日を送っています。

夢をずっと作って行くことができるように機会をください。
最善の努力をつくします。

お送りいたしました二冊の本は今連載している[THE TAROT CAFE]というマンガです。

私は1974年8月9日生まれでソウルで出生し、1997年に國民大學校の視覚デザイン學科を卒業しています。

デビューは 94年（20歳の頃）にカラーという雑誌でしました。

その後 97年に大遠出版社の新人マンガが公募展でまたデビューをしました。

この作業をする前には[失ってしまった羽]、[魂のレクイエム]という短編集を二冊を發刊したし、[THE TAROT CAFE]を連載する前に[レビジュ]をイシューという雑誌で連載しました。

もう一度懇切にお願い致します。機会をください。
ありがとうございます。

朴相仙 より。